

助産雑誌 Back Number

★バックナンバーの取り扱いについて

- ①2015年4月号以降の雑誌は、医学書院受注センター(TEL: 03-3817-5666)にて承ります。
 - ②それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記へお願いいたします。
- 株式会社東亜ブック
〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11
TEL: 03-5947-4781 FAX: 03-3923-4539

2017年3月号



特集 産後ケアを 成功に導くコツ

産後ケア事業は今、どのように進んでいるのでしょうか。「子育て世代包括支援センター」の全国展開に向けた準備状況を含めて、現状の整理と課題をまとめます。各施設での取り組みをご紹介いただき、産後ケアをうまく軌道に乗せるためのコツを共有したいと思います。

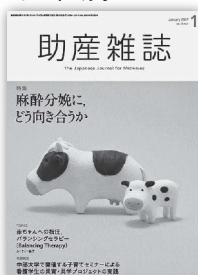
2017年2月号



特集 院内助産の新しい形 クリニック・病院併設助産所の取り組み

現在、比較的大規模な病院での院内助産の開設は進み、助産師による実践が積まれてきました。本特集では、クリニック内の院内助産と併設助産所にも注目し、助産師の業務内容を紹介いただき、やりがい、母子・助産師・施設のメリットについて考えてみました。

2017年1月号



特集 麻酔分娩に、 どう向き合うか

近年わが国では、麻酔分娩の実施件数が増加しています。抵抗を感じる助産師でも、避けては通れない話題です。麻酔分娩の場面における助産ケアの実践を学ぶとともに、助産師はどう向き合えばいいのか、体験を通して考えたことを中心にご紹介いただきます。

2016年12月号



特集 赤ちゃんのもつ力を 最大限に引き出す母乳育児支援

赤ちゃんはたくさんのパワーをもって生まれてきます。ポジショニングとラッチ・オンの主人公は赤ちゃんであり、母親はサポート役。授乳方法のこれまでの歴史を振り返るとともに、赤ちゃんが本来の力を発揮できる授乳方法と、退院後の支援について解説します。

2016年11月号



特集 開業助産師の実践する助産ケア 後輩に伝え、残しておきたいこと

開業助産所で実践しているケアを、妊娠期から産後まで、できるだけたくさんまとめました。大きな病院では同じように再現できなくても、その助産ケアの根底にある意図をくみ取ることが大切。地域や施設を超えた、先輩助産師から後輩助産師たちへのメッセージです。

2016年10月号



特集 周産期救急で 助産師ができること

正常な分娩経過をたどっていても、妊娠婦には常に急変の危険性が潜んでいます。その徴候を見逃さず、適切な初期対応、医師との連携ができるよう、必要な知識・技能の習得が助産師には望まれます。周産期救急において、助産師が果たせる役割について考えます。

2016年 特集

- 9月号 オキシトシンと妊娠・出産・育児の関係
- 8月号 助産師が知っておきたい 妊娠期の「運動」
- 7月号 助産師教育で伝えたい、大切な助産ケア
- 6月号 次世代につなげる妊婦の栄養指導 厳しい体重増加制限のもたらす危険性
- 5月号 胎児心拍数モニタリングを極める 見逃してはいけないCTG波形
- 4月号 制度の根底にあるもの・期待されること アドバンス助産師の誕生
- 3月号 遺伝カウンセラーとは異なる 出生前検査における助産師の役割